

天理大学ふるさと会国内研修報告書

パスポートのいらない英国「ブリティッシュヒルズ」について

国際学部外国語学科英米語専攻 4回生 米澤明世

目次

はじめに	1
ブリティッシュヒルズの基本情報	3
ブリティッシュヒルズの宿泊について	4
ブリティッシュヒルズの食事について	7
カルチャー体験	11
マナーハウスツアー	12
おわりに	24



はじめに

この度は、ふるさと会国内研修に採用していただきありがとうございます。ふるさと会の皆様をはじめとした沢山のご協力のもと、3月14日～17日に、語学研修施設「ブリティッシュヒルズ」にて英国の文化・歴史の理解を深めるための国内研修を行いました。研修地であるブリティッシュヒルズは、1994年神田外語大学・神田外語学院を運営する学校法人佐野学院が日本において英国文化を体験できる場として福島県に設立した語学研修施設兼、日帰り観光もできる宿泊施設でもあります。

イギリスに興味を持ったきっかけ

私がイギリスに興味を持ったのは、幼いころからイギリスの小説や映画に夢中になったことがきっかけです。それから、イギリスの街並みや自然、インテリア、英国王室、文化、ファッションなど様々なことに興味を持ち、いつかイギリスに行ってみたい、英語を話せるようになりたいと思うようになりました。また、普段からイギリスの映画を見たり、イギリスに関連する展覧会や英国のカフェに行ったり、イギリスのものを集めたりすることが私にとっての楽しみで、イギリス人の古き良き風習を大切にす文化に魅力を感じています。

♣私がここ1.2年で実際に行ったり、集めたりしたイギリス関連のものです。



イギリス車『MINI』の展示会



奈良にある「ブライトンティールーム」



京都にあるイギリススタイルのカフェ
『THE THREE BEARS』



「ブライントンティールーム」のスコーン



- ・大阪で開催された「ロンドンナショナルギャラリー展」で購入した絵葉書
- ・イギリスについて詳しく書かれているお気に入りの本
- ・百貨店で開催される英国展のダイアナ元妃の紅茶
- ・お土産で頂いたハロッズの紅茶とマグカップ
- ・イギリスのブランド「ウェッジウッド」の食器など



大阪で開催された「ステラマッカートニー」と「ビートルズ」のコラボによるポップアップ店

ブリティッシュヒルズの基本情報

所在地

〒962-0622

福島県岩瀬郡天栄村大字田良尾字芝草 1-8

アクセス

「新白河駅」⇔「ブリティッシュヒルズ」間の無料送迎バスが出ており、片道 40 分ほどで到着します。

(完全予約制で 0120-131-386 (9:30～18:00 受付) にて、利用予定日の前日 17:00 までの予約が必要です。) タクシー、車でのアクセスも可能です。

コンセプト

ブリティッシュヒルズは、英国が最も繁栄し世界に影響力をもった中世の英国を再現しています。施設は、当時台頭していた荘園領主の館(マナーハウス)を中心とした街を忠実に作り上げるため、英国から 12 世紀～18 世紀の建築資材やインテリアを取り寄せ、時代考証に基づいて設計されています。

また、羽鳥湖高原に位置し 7 万 3,000 坪の広大な敷地を持っているブリティッシュヒルズは、海拔 1,000 メートルの森の中に存在し、下界から遮断された非日常空間で、夏は涼しく、冬は白銀の世界を楽しむことができる、スコットランドのハイランド地方に近い風土を持っています。

施設では、英語での様々なカルチャー体験、マナーハウスツアー、英国の食文化をレフレクトリー、パブ、ティールームといったレストランで味わえるなど、英国のルーツを体験することができます。

さらに、施設内のスタッフは、旧英連邦諸国出身者が多く在籍し公用語が英語であるため、自然にスタッフと英語でコミュニケーションを取ることができます。



ブリティッシュヒルズの宿泊について

ブリティッシュヒルズでは、中世英国の建築様式に基づいて建てられた木造のクラシカルなゲストルームに宿泊することができます。英国史上有名な人物の名前を冠した9つのゲストハウス（レン、ベントレイ、ヘンリー2世、ホルバイン、ニュートン、チャーサー、ターナー、ドレイク、バラック）があり、部屋は4タイプ（ドミトリー、スタンダード、デラックス、ラグジュアリー）にわかれ、それぞれに異なる時代設定のお部屋やインテリアを楽しむことができます。

今回、私はスタンダードタイプのお部屋で、チューダー様式のゲストハウス「ドレイク」に宿泊しました。ドレイクとは、16世紀後半にスペインの無敵艦隊を撃破し、海軍王国イングランドの基礎を築いた「サー・フランシス・ドレイク」に由来します。宿泊したドレイクの部屋の中は、重厚なアンティークの木製家具を基調とした温かみのあるクラシックな空間の中に、ベッドや絨毯に豪華さもある素敵なお部屋でした。バスルームには、英国伝統様式の猫脚バスと凝った装飾が施された洗面台があり、中世の優雅な雰囲気を感じることができました。

また、ゲストハウスの共同スペースでは、宿泊客が会話を楽しみながらチェスやトランプなどゲームをしたり、飲み物を頂いたりすることができます。



ゲストルーム一覧



ゲストルーム「ドレイク」の外観



宿泊した部屋の内装





豪華なベッド



ゲストハウス「ドレイク」
にある共同スペース



英国伝統様式である猫脚のバス
タブ付きのバスルーム

ブリティッシュヒルズの食事について

イギリスは海に囲まれており、国の約半分が牧場や牧草地のため、魚介類、肉類、乳製品が豊富だそうです。このような背景により、「ローストビーフ」や「フィッシュ&チップス」など魚や肉を使った英国伝統料理が沢山あります。

ブリティッシュヒルズには、リフレクトリー、アスコットティールーム、フォルスタッフパブの3つのレストランとエグゼクティブラウンジがあり、本格的な英国伝統料理を味わうことができます。また、施設内のレストランやギフトショップでは、£1=¥100で全ての商品がポンド表記されています。

エグゼクティブラウンジ

ブリティッシュヒルズのエグゼクティブラウンジは、英国貴族の邸宅ではドローイングルームにあたります。20歳以上の宿泊客が利用できるドレスコードありのラウンジで、昼間は挽きたてのコーヒー、夕食後は厳選したシングルモルトやカクテルを頂くことができます。また、ゴールドデンウィーク、クリスマス、大晦日などに、演奏家によるコンサートを行うこともあるそうです。

リフレクトリー

リフレクトリーとは、中世以来の修道院や大学に寄宿する人たちが集まって食事をする場所のことだそうで、ブリティッシュヒルズではメインダイニングルームです。リフレクトリーでは、英国をはじめとするヨーロッパの伝統的なディナーコースを頂くことができ、食事の際はドレスコードが必要となります。男性はジャケット着用が必須で、持っていない場合は施設から貸し出しがあるそうです。逆に、避けなければならない服装は、ジーンズ、Tシャツ、トレーニングウェア、サンダル、パーカ、ハーフパンツ、露出が多い服装などがあります。

また、リフレクトリーのダイニングルームは、オックスフォード大学のダイニングスタイルに基づいてつくられており、多くの英国カレッジの食堂がこのスタイルと似た構造をしているそうです。日本人にとっては、馴染みのあるハリーポッターの食堂のような雰囲気を味わうことができます。私は滞在中、ディナーでリフレクトリーの利用はなかったのですが、朝食ビュッフェをリフレクトリーで頂きました。朝食ビュッフェでは、ドレスコードがいらず、スクランブルエッグ、ベーコン、ソーセージ、ポテト、パン、サラダ、ヨーグルトなど

のスタンダードな朝食をゆっくり頂くことができました。



リフレクトリー



朝食ビュッフェ

アスコットティールーム

イギリス人は、朝にモーニングティー、午後にあフタヌーンティーやクリームティーなど1日にお茶を楽しむ時間を設けるほど紅茶が大好きだそうです。アフタヌーンティーでは、紅茶と一緒に3段重ねのトレイに盛り付けられたサンドイッチやスコーン、いろいろなケーキやタルトを食べるのが定番みたいです。この習慣は、夕方から始まる演劇やバレエ、コンサート、ミュージカルなどを観に行く人がイギリスでは多く、その前にお腹なかを少し満たすためと言われています。

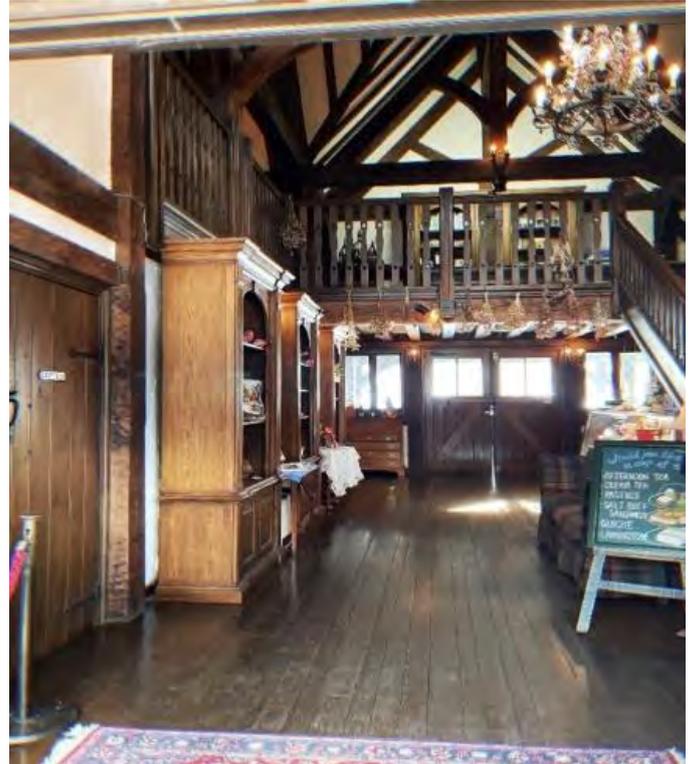
アスコットティールームでは、昼間は20種類以上の紅茶やパティシエ特性のケーキが楽しめる本格的なティールームで、夜は英国家庭料理を楽しむことができます。また、ティールームの名前「アスコット」は、アン女王によって創設された王室所有の競馬場に由来します。私は滞在中に、2度利用しアフタヌーンティーとクリームティーを頂きましたが、どちらもスコーンが含まれており、外はサクツとして中はバターでしっとりしている出来立てのスコーンがとても美味しかったです。英国風のスコーンの食べ方で、真ん中の割れ目から半分に割り、ジャムとクロテッドクリームをたっぷりつけていただきました。



←アスコットティールーム



アフタヌーンティー



店内



アスコットティールームのショーケース



クリームティー

フォルスタッフパブ

イギリス人にとってパブは、お酒を飲むための場所ではなく、社交の場としてコミュニケーションを楽しむ場所だそうです。パブの歴史は、11～13世紀からパブのルーツとなるお店が存在し、18世紀ごろに「public house（公共の家）」と呼ばれる場所がイギリスの町にでき、今の「パブ」に進化したそうです。

ブリティッシュヒルズのフォルスタッフパブは、シェイクスピア作品に登場する陽気で憎めない大酒飲み「サー・ジョン・フォルスタッフ」に由来します。また、15～16世紀の居酒屋兼旅宿を改装して、現代のパブに仕上げたイメージでつくられており、英国の街角にあるパブの雰囲気そのままに豊富な種類のアлкоールドリンクやフィッシュアンドチップス、ステーキ、パイなどの英国伝統料理を楽しめます。私は宿泊プランにパブのコースディナーがついており、ウナギのテリーヌ、パン、スープ、メインのビーフステーキ、デザートを頂きましたが、全て美味しく満足感のあるディナーでした。また、コース料理以外の注文は英国のパブ同様、自分でカウンターに行き注文と支払いをするシステムになっています。カウンターでは、店員さんが気さくに話してくれ、コミュニケーションを取ったり、ダーツをしたりと楽しい時間を過ごすことができました。



←フォルスタッフパブ



←店内



カウンター席



ウナギのテリーヌ



ビーフステーキ



フォンダンショコラ

カルチャー体験

ブリティッシュヒルズでは、英国文化を体験できる英語カルチャーレッスンを受けることができます。レッスンでは、カリグラフィ、ブリティッシュクラフト、クッキング、ティーブレnding、英会話、スヌーカーなど英国文化を外国人講師が英語で教えてくれます。私が参加したティーブレndingのレッスンでは、イギリス出身の講師が紅茶の葉の種類、相性のいい葉の組み合わせ、比率など紅茶について教えてくださいました。私は、ブレンドする葉の相性は深く考えず、自分が好みの葉を組み合わせで作りましたが、自分が気になるフレーバーの組み合わせに挑戦できるのが、このレッスンのいいところだと先生もおっしゃっていました。つくった紅茶は持ち帰ることができます。



↑3種類の葉をブレンドしてパックに詰めてます

マナーハウスツアー

マナーハウスツアーとは、ブリティッシュヒルズの主要な建物であるマナーハウスを巡るツアーのことで、英語・日本語の両方で開催されています。ツアーでは、英国の歴史に触れたり、屋敷内の各部屋に隠された興味深いストーリーを知ったりできるので、ブリティッシュヒルズに来る方は参加することをお勧めします。

ツアー詳細

【開催時間】 日本語 11:00～ / 14:00～

英語 13:00～

(2022年1月16日～5月31日の情報)

【所要時間】 約40分

【集合場所】 マナーハウス受付

【料金】 大人(中学生以上) おひとり ¥600
 子供(小学生) おひとり ¥300

※未就学児、宿泊者は無料

※事前のお申し込み有

マナーハウス

そもそもマナーハウスとは、中世の英国貴族が自分の領地である荘園内に建てて生活していた建造物のことであり、一年の半分をマナーハウスで過ごし、半分をロンドンの邸宅で過ごすという二重生活を送っていたそうです。また、ただ領主の邸宅というだけでな

く、次第に社交の場や会議を行う公的な機能を持ち改装がなされていき、ブリティッシュヒルズではその変遷を再現しています。



ブリティッシュヒルズのマナーハウス



シェイクスピアの像

エントランスホール

マナーハウスの玄関口は、訪問客を最初に通す場所ということもあり、ハウス内で最も豪華にし、富を誇示する場所でもあります。また、本来は執事が出迎え、2階にいる領主に会わせるに相応しいかを見極めるそうです。ブリティッシュヒルズでは、玄関口を入るとすぐに宿泊の手続きを行うレセプションがあり、屋敷内で最も大きなフランス製のシャンデリア、本物の暖炉、豪華な絨毯、大きなレザーのソファなどが高級感のある空間が演出しています。冬には、薪を燃やして暖炉を使用し、部屋を暖めるそうです。暖炉の上には、4つの英国地域の四季を表した絵画が季節ごとに変わり、私が訪れた3月はウェールズ地方の冬の絵が飾られていました。



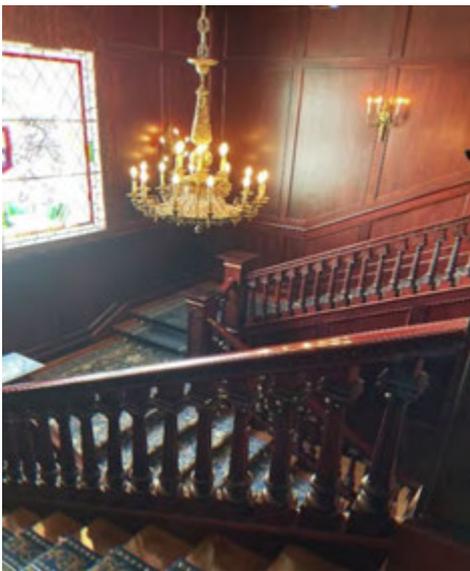
←エントランスにある暖炉と絵画



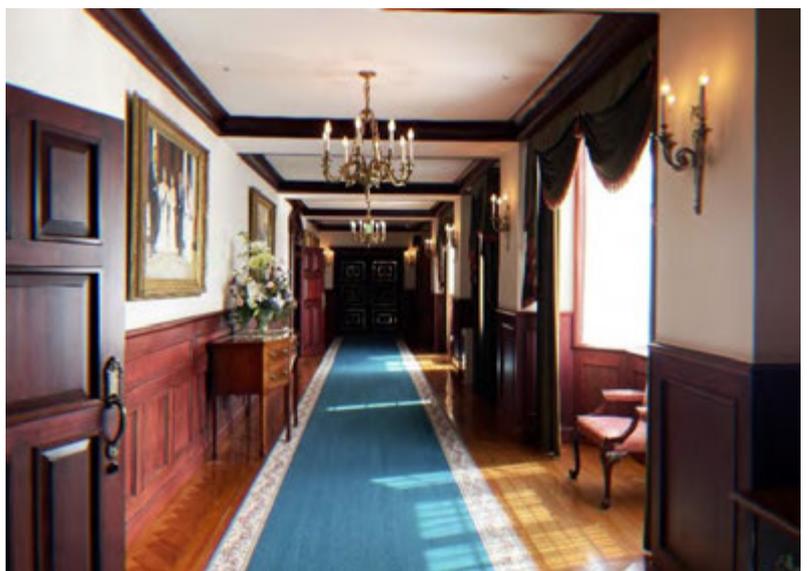
←エントランスのシャンデリア

アッパールーム

マナーハウスの2階は領主が認めた限られた一部のお客様しか上がることができないそうで、ブリティッシュヒルズでは、マナーハウスツアーの参加者と宿泊客は2階に上がることができます。2階に上がると広々としたアッパールームがまず目に入り、ダンスなど社交の場として本来は使われるそうです。ブリティッシュヒルズのこのスペースでは、祭壇を設け挙式を挙げるができるそうです。壁にある彫刻で描かれた物語の絵、シャンデリア、ウェディングケーキをモチーフにした天井、数百万するというペルシャ絨毯、陶器に生けた豪華な生花、ソファなどが豪華な空間を演出しています。



↑アッパールームに行く階段



↑アッパールームの廊下



↑アッパールーム



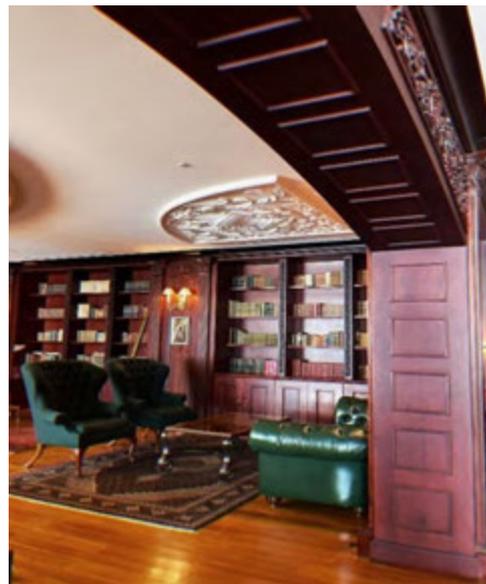
ウェディングケーキの模様が入っている天井

ライブラリー

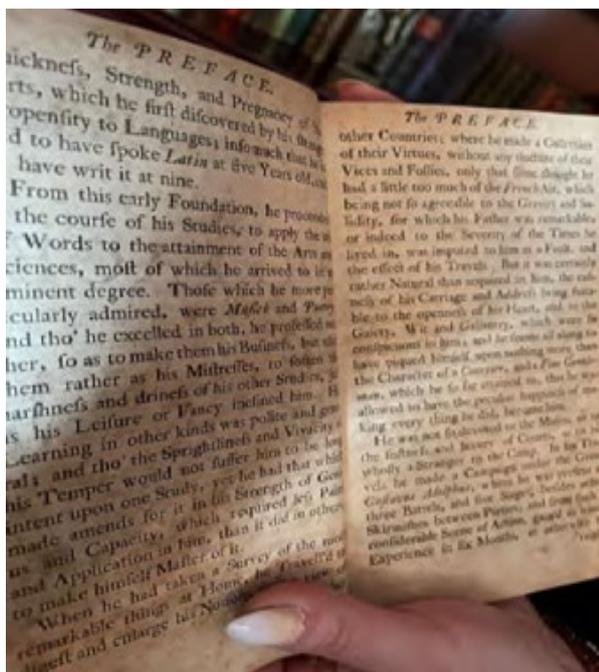
2階には、大きな部屋が3つあり、その1つが図書館です。貴族の館に図書館が定着し始めたのは17世紀中ごろからだと言われています。ブリティッシュヒルズでは、19世紀の刊行物を中心に約1600冊もの洋書が2部屋に収納されており、もっとも古い本は300年ほど前のもので、新しいものでも100年前のものだそうです。宿泊客は、いつでも図書館で自由に本を読むことができます。また、図書館はドラマ「花より男子」の撮影場所としても使われたそうです。



図書館で一番古い約300年前の本↓



ドラマ「花より男子」で使われた部屋↓



クイーンズルーム

クイーンズルームは、領主夫人の居室兼寝室で、リボンやピンクを基調とした豪華でフェミニンな家具でつくられています。また、コルセットを着用していた時代に、女性が気軽にもたれかかることができるソファがあり、時代背景を感じることができます。この部屋は宿泊可能で、1泊20万円もするそうです。



↑コルセットを着る女性が、楽にもたれかけられるソファ

キングズルーム

キングズルームは、赤や金の家具、本物のクマの毛皮、ライオンなど動物をモチーフとした豪華なインテリアが沢山あり、強さや権力を表しています。クイーンズルームとキングズルームは部屋の中につながっており、扉に鍵をかけることでプライバシーが守られるつくりになっています。また、キングズルームの仕事机は、真ん中の引き出しが向かい同士につながっており、領主と来客が秘密の取引などを行う際に使われたそうで、「under the table（ひっそりと、不正な方法で）」という表現は、このような背景と関係しているそうです。



↑本物のクマの毛皮



←動物モチーフの家具



秘密のやり取りが行われた仕事机



ドロイングルーム

個人的に1番好みの部屋「ドロイングルーム」は、英国王室のダイアナ元妃のダイニングルームを再現した部屋だそうで、ゴールドとグリーンを基調とした貴重な家具や装飾品で彩られ、ダイアナ元妃の写真が飾ってあります。ここは、政府関係者など特別なお客様を招くときに使われるそうです。



↑約300万円するグリーンのソファ



スヌーカールーム

イギリスでスヌーカーは、テレビで中継されるほど人気のスポーツで、ビリヤードの一種です。スヌーカーの台は日本に40台ほどしかない貴重なもので、その3台はブリティッシュヒルズが所有しています。中世では、賓客をマナーハウスに招いた場合、ディナーの後に男性はスヌーカーームへ移動し、ゲームに興じたそうです。

他にも、ブリティッシュヒルズでは、小体育館で卓球やバドミントン、テニスコートでテニスを楽しむことができます。



施設内のスタッフもスヌーカーをよくプレーするそうです



ビクトリアンアレー

ブリティッシュヒルズのお土産屋であるビクトリアンアレーでは、イギリスの輸入食品や輸入グッズ、ブリティッシュヒルズのオリジナルのお菓子やグッズを購入することができます。



←ブリティッシュヒルズ
オリジナルのクッキーが
とても美味しかったです。



←お土産屋の前にある
休憩室

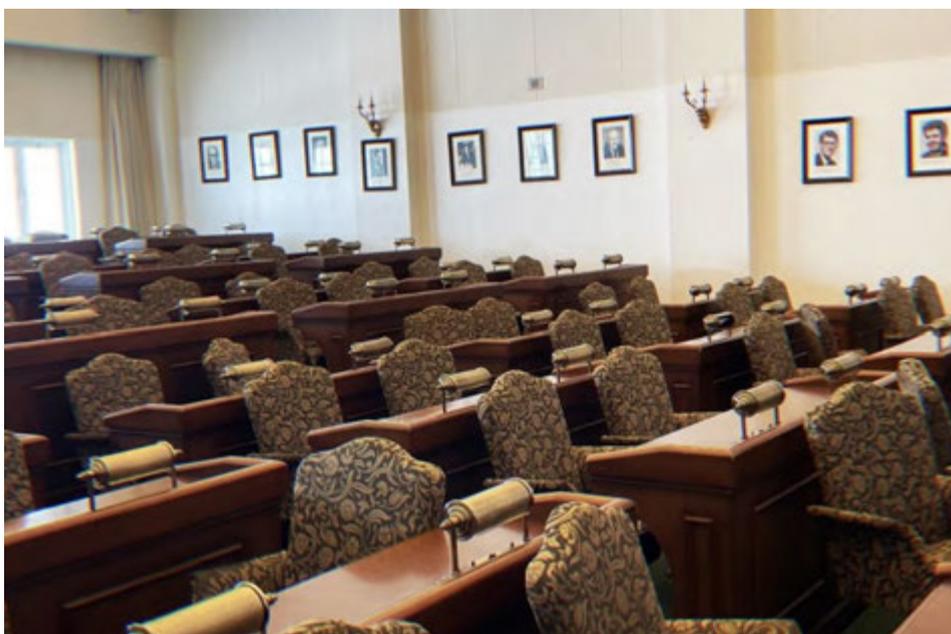
チャペル

キリスト教の方は、ここで祈りすることができます。また、希望があればアップールームと同様にチャペルでも挙式を挙げるすることができます。



講堂

研修に来た学生たちがオリエンテーションを受ける際などに使用するそうです。





↑最後にマナーハウスツアーに参加した方とカナダ出身のガイドさんと一緒に写真を撮りました。とても楽しい時間を過ごせました！

おわりに

この研修を通して、ブリティッシュヒルズが英国を再現するために工夫しているこだわりを「建築物」、「インテリア」、「食事」、「文化」、「言語」などあらゆる面で感じることができました。また、英国の食事や文化を体験できたり、海外の方と英語でコミュニケーションを取ることができたりと、日本にいながらも英国と同様の体験ができ、「中世の英国上級階級の生活と現代もイギリス人が慣れ親しむ習慣」、「自国の歴史、文化を大切にする素敵なイギリス人のあり方」を感じることができました。

同時に、追求すれば自分が知りたいことや、日本でも海外について学ぶ機会はあるということを実感し、その経験は楽しく、今後の人生をより豊かにしてくれると感じました。実際、この研修で学んだ英国の知識は、大学卒業後に入社したアパレル会社でブランドの背景やファッションの知識を学ぶ際にも役に立っていると感じています。

今回の研修で訪れたブリティッシュヒルズでは、普段の日本の生活とは離れた非日常空間を味わえるため、「リフレッシュし自然を楽しみたい方」、「英国のアンティークやインテリアに興味がある方」、「イギリスまたは海外に興味がある方」、「英語を学びたい方」など様々な人が楽しめる語学施設だと思います。私は今回の研修でブリティッシュヒルズの冬景色を楽しめたので、次回行く際は暖かい季節にガーデンや自然の美しさを楽しめたらと思っています。

最後に、ふるさと会のみなさまのおかげで充実した研修を行うことができたことに、改めて感謝申し上げます。このような素晴らしい機会をくださり、本当にありがとうございます。

ました。

